

演劇的表現活動の実践Ⅱ

～児童文化演習の実践活動より～

Practice of the dramatic expression activityⅡ

～Than practice activity of the juvenile culture practice～

佐 藤 厚
Sato Atsushi

キーワード： 劇あそび・エンダウメント（見立てる）・表現力・生き方の練習

はじめに

子どもが夢中になって遊ぶ姿は真剣そのものである。その中に大人の指導者が入って、その遊びがより楽しくスケールの大きなものにするには、その指導者の手腕にかかっている。では、実際に劇あそびを通じて指導者はどのような言葉がけや表現力を駆使しながら活動することが効果的なのか。劇あそびと言うと「劇をさせる」イメージが厳然としてあることは否めない。あくまでも遊びの主体は子どもであって、大人は「サポート・ガイド・進行」役でなければならない。幼児教育学科2年生「児童文化演習」の授業で、附属幼稚園での劇遊び「宇宙旅行」朗読劇「めっきらもっきら どおんどん」の実践演習の活動報告並びに活動を通して、子どもたちの反応や演習後の学生達の声をもとめ、指導者としての資質と指導方法を探ってみた。

【附属幼稚園で行われた朗読劇の脚本及び劇あそび活動記録】

朗読劇「めっきらもっきら どおんどん」

長谷川摂子 原作

佐藤 厚 構成台本

N：ナレーター

K：かんだ

S：しっかかもっかか O：おたからまんちん M：もんもんびやっこ

K：遊ぶ友達が誰もいない。みんなどこへ行ったのかな？ここまで来たのに誰もいない。

N1：しゃくだから、かんだは歌ってやった。大声でめちゃくちゃの歌を。

K：ちんぷく まんぷく あっぺらこの きんぴらこ

めっきらもっきら どおんどん

N2:するとどどーっと風が吹き、風によって奇妙な声が聞こえてきた。

S:よおよお、ええ歌ええ歌

O:おなかが ぼんぼん はじけるぞ

M:こっちゃこい こっちゃこい、こっちゃきて うたえ

N1:耳をすますと、どうやら声は穴の中から。かந்தがのぞきこんだそのとたんー

N1・2:ひゅうっと穴に吸い込まれて

K:おちる～

N1:おちる

N2:おちる

N・K:おちる～

N1:着いたところは

K:夜の山?

N2:おや、むこうから へんてこりんな 3人組が飛んでくる。

N1:やって来るなり、おかしな3人はかந்தに 飛びついた。

M:よっほーい、遊ぼうぜ。おいら、もんもんびやつこ。

S:わーい、友達み一つけた。あたい、しっかかもつかかだい。

O:わしは、おたからまんちんと申す。さあ、あそぼうぼう。

K:いやだっ! 化け物なんかと遊ぶかい!

N2:かந்தが言うと、たちまち3人は、大声で泣き出した。

SMO:うおーん 遊んでよう!

えーんえんえん!

あそぼうぼう!

K:うるさいっ! 遊んでやるから、だまれっ!

N1:すると今度は喧嘩が始まった。

S:あたいが1番に遊ぶーっ!

M:なにい、おいらだ!

O:わしじゃ、わしじゃ!

N1:3人はだんごになってもつれ合う。

K:やめろっ! じゃんけんだ。

N2:と、かந்தが叫ぶと、

SMO:だんごはほどけて、じゃんけんぽん!

N1:さて1番は、

S:しっかかもつかか!

N1:かந்தの首に風呂敷を巻いて、枝から枝への飛び移り、

N1・2:モモンガーごっこが始まった。

K・S： うまいっ 飛べるぞ モモンガーっ♪
風呂敷はたはた モモンガーっ♪
髪の毛ひゅうひょう モモンガーっ♪

N1：かんたは何度も飛んで、

K：汗びっしょり！

N2：つぎは、

O：おたからまんちん。

N2：そこらじゅうに、宝の玉をぶちまけた。

O：さあ、いらっしやい。お宝交換だ。どれでも好きなのと取り換えてしんぜる。

K：ビールの王冠でもいいかい？

N1：と、かんたが言うと、

O：なに、ビールの王様のかんむりか。そんなお宝が手に入るとは、ありがたき幸せ。

N2：おたからまんちんは おおニコニコで かわりに、かんたに不思議な水晶玉をくれた。

O：ほら、のぞいてごらん。海が見えるよ。

K：うわあ～ほんとだ、すごーい。

N1：つぎは、

M：もんもんびやっこ 縄跳びの名人！

K・M： 山を蹴飛ばせ びょーんびょん♪

月をひっかけろ びょーんびょん♪

N1・2：ふたりは、キャアキャア笑って

K・M：135回も飛んだ！

K：さあ、今度はみんなで遊ぼう！

SMO：空飛ぶ丸太に乗って！

K SMO：今夜はうれしや友達だ♪ 今夜は楽しや友達だ♪

SMO：うーたえ うたえ あの歌を♪ 空から聞こえたあの歌を♪—それっ

K：ちんぶく まんぶく あっぺらこの きんびらこ

めっきらもっきら どおんどん

N2：さんざん遊んでおなががすくと、

SMO：お餅のなる木を見つけて食べた。

K：ふうわり甘くて、ほっぺたが落ちそう！

N2：おなががいっぱいになると3人のお化けたちは眠ってしまった。

SMO：ふわ～あ

N1：かんたは一人で月を見ているうちに、たまらなく心細くなったきた。

とうとう、がまんできず夜空に向かって大声で—

K：お・か・あ.....

N2：と、そのとたん3人は跳ね起きた。



SMO：言うなっ！そ、それを言ったらおしまい！

N2：てんでにかんたに飛びかかり、口をおさえにかかったけれど、

N1・2：もう間に合わない。

K：おかあさん！

N1：かんたの声が広がると、突然、夜空に日の光が差し込んだ。

銀の光が渦巻いて、かんたのからだは、

全：くる　くる　くる　くる……

K：あれっ、ここはどこ？

N1：かんたはぼんやり立っていた。ちょうどその時、おかあさんの声がした。

N2：かんちゃーん、ごはんよー

N1：かんたは、ぱっとかけ出した。

K：あれから何度も神社に行った。でも、もうあの声は聞こえない。

歌をうたえばまた3人に会えるかな？

N1：と思うけど、かんたはあの歌を忘れてしまって

K：どうしても思い出せない。

SMO：ちんぷく　まんぷく　あっぺらこの　きんぴらこ

めっきらもっきら　どおんどん

全員：おしまい

劇あそび「宇宙旅行」

○目的：フィクションの世界を十分楽しもう。

ストーリーを理解し、お友達と楽しみを共有しよう。

みんなでお話を創り上げる(楽しむ)為に、お互い工夫協力したり助け合うことを体得しよう。

○対象：5～6歳児

○場所：幼稚園、保育園のホールのスペースが望ましい。

(内容規模によっては保育室も可。)

児童館などのホール。

○用意する物：

長めのロープ、ウレタン積み木、太鼓、シンバル、ウッドブロックなど。

マット、バルーンなどがあればよい。

効果音ーロケット発射、デススター(悪者の星)、地球へ帰還その他、各星に合わせて工夫しても良い。

※効果音は、あくまで子どもの活動が主体となるようにしたい。また、音に頼りすぎ



(凝り過ぎ) ては逆効果となる。ピアノだけの効果音でもよい。

- 導入：お話が始まる前に、日常保育の中での手あそび歌などで子ども達それぞれの意識を集中させる。星座や、宇宙に関する図鑑などを見ながら、「宇宙って知ってる?」「星見たことある?」「どんな星がある?」などの質問をする。子どもたちから「太陽。月。流れ星。火星。惑星。ロケット。宇宙船。e t c . . . 」など、宇宙に関わる色々な事柄を発言させ、イメージを沸かせる。図鑑の間に手紙が挟まっている。(又は、園に手紙が届く。)それは、何やら薄汚れた手紙で、色々な文字が描かれている。その手紙を読んでみると. . . 。

●展開1：

《ストーリー》

「上田女子短期大学附属幼稚園の皆さん、助けてください。僕は『ライトスター』と言う星の王子です。僕たちの星では皆いつもとても元気で明るく、仲良く暮らしています。歌を歌ったり、サッカーしたり、皆でお料理作ったり、遠足に行ったり、それはそれは楽しく暮らしているのです。



時々けんかもするけどすぐに仲直り。その後はもっと仲良くなるんだ。

ところが最近『デススター』と言う暗黒星雲からやって来たとても恐ろしい星が僕たちの星に近づいて来て、真っ暗闇の星にしておもうとしているんだ。『ライトスター』の皆も暗くならないように明るく元気な歌を歌ったりしているけど、このままだと『デススター』の力に負けて真っ暗になってしまいそうなんだ。そうすると、歌わなくなるばかりか、喧嘩やいざござばかり増えて、『ライトスター』は滅びてしまう。そこで、どうかお願い。



僕たちの星に来て、明るく元気な歌を歌って欲しい。皆が力を合わせればきっともとの明るい『ライトスター』に戻れるはず。もう、時間がない。『デススター』がそこまでやって来ている。早く、早く着て。

来る途中にはいくつかの星を通して来なくてはいけないけど、お友達と助け合って来てね。気をつけて。でももし、途中で『デススター』に会っちゃったら、慌てず、皆で力を合わせてできるだけ元気な声で笑うんだ。『デススター』は子どもたちの元気な笑い声が大嫌いなんだ。笑い声だよ。頼んだよみんな。待ってるから. . . 。

○展開 2：子＝子ども達 T＝指導者・先生

T：みんな、どうする？助けに行こうか？

(勇気をもって助けに行く雰囲気にする。)

子：うん、いいよ！

T：よし、では宇宙に行く準備をしなくちゃね。宇宙に行くには何が必要かな？

子：宇宙服。ヘルメット。酸素ボンベ。ロケット。スペースシャトル。e t c . . . 。

T：そうだね。『ライトスター』に行くまで色々な星を通っていかなくてはいけないんだけど、みんな大丈夫だね。お友達と一緒にだもんね。どんな星があるのか楽しみだね。

あ、そうだ。もし『デススター』が現れたらどうするんだったっけ？

子：笑う！

T：そう、大きな声で笑うんだよ。

(ここでは、あまり使命感にからせないように明るく。)

次は、ロケットを用意しよう。これ！

(長いロープを出す。子どもたちからは「え～そなんじゃ行けないよ。どうやって行くの？」等の声があがる。ここで、エンダウメント「一つのことを違う何かに見立てる」ことを大切にして遊ぶ)

大丈夫。こうやって大きな一つの円にして(学生達で広げる。)みんなこのロケットの中に入って！そして、肘でロープを抱えて。いいかな？おっと、宇宙服着てなかったね。

(ヘルメットをかぶったり、宇宙服を着たり穿いたりする。)

シートベルトを締めて。準備OK？

子：OK！

T：ア～こちら宇宙航空ステーション。聞こえますか？どうぞ。

子：聞こえます。どうぞ。

T：みなさんは、これからどこへ出発するのですか？どうぞ。

子：ライトスター。

T：何をするために？どうぞ。

子：明るくする。デススターから守るため。

T：そうですか。では、気をつけて、元気で行ってきてください。どうぞ。

子：行ってきま～す！

T：では、ロケット発射、秒読みに入ります。しっかりつかまってください。少し大きな音がしますがしばらく我慢してください。

《効果音：以下 SE と表示(Sound Effect)の略

《SE 1. ロケット発射!!

<宇宙音流れる中、最初の星に到着。>

T：ここは？ふわふわ星だ。みんなそ～っと周りを見てきてみよう。

(ゆっくりスローモーションで動くことを楽しむ。)



何かふわふわしたものが見つかった？見つけたら先生やお友達に見せてね。

(辺りを散策。お互いに見つけたものを見せ合ったり質問したりする。)

もちろん実際は見えない、イメージ『想像』の世界を楽しむことを大切にする。)

そろそろ次の星に行こう。みんな集まって。カウントダウン5・4・3・2・1・で
シュワッ！だよ。行くよ。さんハイ！

子：5・4・3・2・1・シュワッ！

T：ここは？ジャンプ星だ。動く時は「ジャ〜ンプ！」

と言いながら行くんだよ。いいね。では行ってらっしゃい。

子：J u n p . J u n p

T：そろそろ次の星に行こう。みんなジャンプで集まって。カウントダウン、5・4・3・
2・1・でシュワッ！だよ。行くよ。さんハイ！

子：5・4・3・2・1・シュワッ！

T：ここは？じゃんけん星だ。

(先生対子ども達、みんなでじゃんけんを楽しむ。)

次の星に行こう。みんな集まって。カウントダウン、5・4・3・2・1・で
シュワッ！だよ。行くよ。さんハイ！

子：5・4・3・2・1・シュワッ！



※「お菓子星」では本当においしいような
「見えないケーキ」を学生に見せる子ども。

※「じゃんけん星」勝っても負けても、
元気いっぱい！



(この他「細長星」「ごろごろ星」等 CM...クリエイティブ・ムーヴメントにつながるような星
やなぞなぞ星などを設定。子どもの発案を取り入れても良い。今回は主に参加学生が発案。)

《SE 2. デ=デススター

するとそこに、おどろおどろしい音とともに「デススター」のカゲアナ(学生が担当)。

子ども達の状態によっては、先生がサングラスなどをかけてじっさいのデススターに扮して
もよい。

デ：だあれだあ。いったいどこへ行くう。

子：ライトスター。

デ：ナニ？ライトスターだとお。何をしに行くのだあ。

子：デススターから守って、明るくする。

デ：なんだとお？ヌアハハハハ．．．！ わしがそのデススターじゃあ！おまえらみんな真っ暗にしてやるわ！ごおおおおわああああ！

T：わあ！みんな気をつけて。どうしよう。

子：光線銃でやっつけろ。ブシュー！ビビビビィー！

デ：ヌアハハハハ．．．！そんなものでわしを倒せると思っておるのかあ。

ごおおおおわああああ！

T：どうしよう、みんな。どうするんだったっけ？

子：笑うんだよ。大きな声で。

T：そうか。そうだみんな、大きな声で笑え、笑えー。

子：ぎやははは、わははは、きゃははは！！

デ：うわあ！やめろやめろ。何だこの楽しい笑い声は。

身体の内が熱くなる。や、や、やめろ、やめろ、やめ
てくれ～！

(一旦音が小さくなりかけるが、再び大音響とともにデススターの声が…)

デ：まだまだまだあ！ごおおおおわああああ！

子：ぎやははは、わははは、きゃははは！！

デ：うわあ！あ～ああああ……………。

《SE 2、フェードアウト

T：やったあ！デススターをやっつけたあ！ふう～、
みんな大丈夫だった？ちょっと怖かったけどね。

あ、そろそろ、ライトスターに行かなくちゃ。みんな集まって。カウントダウン、行くよ。
さんハイ！「5・4・3・2・1・シュワッ！」

(薄暗い星に到着。)

ここか？なんか、暗～い感じだね。早くしないとまた、デススターがやって来るといけない。みんな、ライトスターが元どおりの明るい星にしたいんだけど、どうしたらいい？

子：う～ん、明るくなれって言う。電気をつける、ダンスする。歌う。e t c

T：そうか…歌とかダンスね…。みんなが知っている歌やダンスは？

子：うたえバンバン！サンサン体操！

(先生の伴奏で歌ったり、ダンスを踊る。)

T：素晴らしい歌だったね。そうだ、明るくなってきたかどうか聞いてみようか。きっと何か合図をしてくれるよ。

子：明るくなったかな？

(合図がない。)

T：あれ？もう一度。

子：明るくなったかな？

(ストロボのライトが光り今回は参加学生のカゲアナでライトスターの王子の声。または、



先生が王子に扮して登場してもよい。王＝王子)

王：みんな、来てくれてありがとう。みんなの楽しく、元気な歌声のお陰でライトスターは元どおりの明るさになってきたよ。もっともっと明るくするように僕たちも元気に頑張るからね。本当にありがとう。

T：よかったね。でも、またデススターがやって来たらどうするの？

王：大丈夫。だってさっきみんなが歌ってくれた歌を元気に歌えばへっちゃらさ。

T：そうだね。とっても元気な歌だもんね。じゃ、そろそろ僕たちも地球に帰らないとね。
さあ、みんな帰る準備をしよう。

王：ちょっと待って！みんなが、安全に元気に帰る事ができるようにしてあげたいんだ。

先生、『ワープ星』を通して行って下さい。

T：ワープ星？

王：そうだよ。この星は一人一人、飛んでいくんだ。お友達の名前をみんなで大きな声で呼んであげてね。そうしないと、落ちちゃうからね。みんな、頼むよ。

T：わかった。よし、ではみんなこっちに集まって。

(部屋の角に集合。)

T：それじゃ、ライトスターのみんなに挨拶してから帰ろうか。

子：元気でね。また来るね。バイバ～イ。e t c . . .

《SE 3. ワ～プ音で帰る



一人一人、自分の名前を言って、周りの皆は「○○ちゃん！」と呼んであげる。先生と学生達で子どもの両脇を支えてワープ星<ロープで床に円状に描いたもの>を超えて行く。参観などの場合、保護者に手伝って頂いても良い。全員帰ってきたら「ただいまあ」という。

《SE 3. フェードアウト

(静かな音楽流れる中…)

T：みんな、ライトスターを明るくしてくれて本当にありがとう。ひょっとして今日の夜、天気が良くて星がきれいに見えたら、ライトスターが輝いて見えるかもね。それでは「宇宙旅行」のお話はこれで…

全員：お・し・ま・い。

【実践演習を終えて】

<学生達にとって>

実践演習後、映像をもとに一連の表現活動ふり返り各学生自身は活動中の様子をもとにレポート化した。その中で参加学生全員が自分自身を見つめなおしていた共通点は以下のとおりである。また、劇あそびなどの表現活動が保育の現場で役立てられる教育的効果を学生並びに附属幼稚園教諭の方々にも伺った。

- ・子どもたちを楽しませようとしていたが、逆に子どもたちからたくさん楽しむヒントを与えてもらえた。
- ・子どもたちは、表現遊びに関しても、本気でぶつかってくる。自分も緊張はあったが本気で表現しなくては行けないと活動しながら感じた。
- ・最初は表現することに、恥じらいや照れがあったが、子どもたちが真剣なまなざしで見つめてくれていることがわかり、恥ずかしいとか言ってる場合ではないと感じた。
- ・一生懸命やっているつもりだったが、改めて映像を見ると自身の表情が硬かったり、自分の場面ばかり気にしているあまり、他の人が表現している時無表情なことが多かった。
- ・自分の表現に子どもたちが素直に反応している場面は、自信になるが気持ちが引き締まる思いだ。

また、劇あそびなどの表現活動が保育の現場で大切だと感じることにについては、参加する子どもたち全員が、共通した題材で楽しさや問題解決、助け合うこと、工夫することを体感できる点が良いと述べている。

<附属幼稚園教諭の方々の意見>

- ・フィクションの世界を本気で表現体験できる。
- ・ストーリーを通じてイメージを膨らませる「想像力」や「考える力」が身に付く。
- ・普段は少し恥ずかしがり屋の子どもも、皆と活動することで安心して自己解放していた。
また、その子の姿を見た周りの子どもも嬉しそうな表情で一緒に活動していた。
- ・登場人物を通して色々な役を経験することは、色々な立場や役柄の気持ちを経験することになる。葛藤場面では友達と一緒に意見を言ったり、ワープ星を超える時などは、友達のために一生懸命名前を呼んでいた。幼児期にこうしたことが理屈ではなく体感できることは人間関係を築く基礎になる。

ブライアン・ウェイはドラマによる表現教育の中で、劇あそびなどの表現活動（ドラマの基本的定義）は生きることの練習である―目的はドラマを育てるのではなく人々を育てること―といっている。前述の幼稚園教諭の方の意見にもあったように、確かな手ごたえとして保育の現場の先生方が感じていることである。表現活動を通じて日常保育の中で培われる子どもたちの成長は、数値的に測れるものではないが、劇あそび「宇宙旅行」の活動後の子どもたちの姿に「絵本の部屋で劇あそびで使った本を見つけ“この本、あの時のだ！”と喜んでまた、真剣

に友達と見ていた」「クラスで歌う宇宙船の歌では、発射するフリースで本当に宇宙に行くかのように子どもたち自ら身体表現している」などの様子を見ることができたことは、物事に対する興味や意識付けから実際に自主行動に移ることができた一つの成長を意味する。

今後も継続的に附属幼稚園での実践演習を行い、学生達にとっては指導者としての資質開発及び自己研鑽の場として、また、子どもたちにとっても幼児期における心の成長の一助となるよう研究を深めていく。

<参考文献>

- ・ドラマによる表現教育 ブライアン・ウェイ 岡田陽／高橋美智訳 玉川大学出版部
- ・めっきらもっきらどおんどん 長谷川摂子作 ふりや ななイラスト 福音館書店
- ・遊びからはじまる学び—今、幼児の表現活動を問い直す— 花輪充編 佐藤厚共著 大学図書出版
- ・上田女子短期大学紀要 第31号 幼児と遊ぶ「劇あそび」～指導者の役割と実践シナリオ～
「劇あそび・宇宙旅行」より